日本PTA

発行所
〒107-0052
東京都港区赤坂7丁目5番38号
公益社団法人
日本PTA全国協議会
発行人　東川 勝哉
電話　03（5545）7151
FAX　03（5545）7152
ホームページアドレス
http://www.nippon-pta.or.jp/

綱領

本会は、教育を本旨とし、特定の政党や宗教に偏ることなく、小学校及び中学校におけるPTA活動を通して、我が国における社会教育及び家庭教育の充実に努めるとともに、家庭、学校、地域の連携を深め、子どもたちの健全育成と福祉の増進を図り、もって社会の発展に寄与する。

主な内容

1・2面
○平成29年度年次表彰式
○優良PTA紹介
3面
○全国研究大会仙台大会
4・5面
○各PTAブロック研究大会
6面
○東京2020大会マスコット投票
○明治150年
7面
○各府省庁会議の経過について
○全国的な学力調査に関する専門家会議
8面
○中央教育審議会について
○第3回防災推進国民会議

平成29年度年次表彰式開催

活動の活性化けん引 優良PTAなどを表彰

11月17日（金）東京都千代田区のホテルニューオータニにて、平成29年度PTA年次表彰式が多数のご来賓をお迎えし盛大に開催された。今年度受賞したのは、文部科学大臣表彰132団体、日本PTA会長表彰団体124団体、個人表彰25名、そして感謝状が4名に贈られた。また第39回全国小・中学校PTA広報紙コンクールの表彰式も同時に行われ44団体が表彰された。

私たち大人が学び繋がる団体に

式辞

公益社団法人日本PTA全国協議会
会長　東川　勝哉

本日は全国より多くの皆様にお集り頂きまして感謝申し上げます。また、何より申し上げたいのは皆様へのお礼の言葉と、そしてお祝いの言葉です。皆様本当におめでとうございます。

本日は公務ご多用の中文部科学大臣林芳正様の代理で、文部科学事務次官　戸谷一夫様をはじめ、大変多くのご来賓の方にご臨席を賜りながら、皆様のお祝いができますこと喜ばしく思います。

日本PTAは社会教育団体としては、日本で一番大きな団体です。現在約840万の会員があり、これに保護者の数を入れますと約一千万人となります。来年は創立70周年を迎え、戦後民主教育を目指したこの日本において、少なからずとも下支えをしてきた団体であると自負しております。

本日表彰される皆様はそれぞれ素晴らしいご活躍をなさっていますが、特にPTAの本来の目的に照らし合わせ、優秀な実績や活動を行っていらっしゃる団体ならびに個人の皆様が表彰されます。

そもそも〝PTAの目的〟としては、皆様の持論やアカデミックな文書もありますが、日本PTAは綱領を掲げており、この綱領が私達のむかうべき道と考えております。この目的のために、様々な公益事業や活動をしていますが、今回の表彰もそのうちの一つです。

子どもたちを取り巻く環境は「厳しい」と言われていますが、特に昨今の通信環境・技術の進展に伴い、問題が様々に複雑化しております。そこに私たち保護者がいち早く対応していくことが望まれ、そのためにも大人の学びがとても重要となります。

PTAは子どもたちを健全育成していくための団体でもありますが、私たち大人が学び繋がっていく団体でもあるということを、今一度ご確認頂きながら、今日お集り頂きました皆さんそれぞれが全国の皆さんと繋がって頂ければと思います。

そして広報紙コンクールは私どもも拝見しながら審査させて頂きましたが、甲乙つけがたい、どれも大変素晴らしい作品ばかりでした。昨今インターネットやウェブが発達した中で、学校の活動や単位PTAの活動をデジタルで伝えているところも沢山あると思います。ですが紙媒体であるがゆえ、子どもたちがこの広報紙を手に取って保護者のところへ来たときに、これが一つのツールとなって会話が生まれ、学校のことが分かり、距離感が縮まっていく、そんな紙媒体の重要さを感じております。

子どもたちを健全育成していく中で、先生たちの働き方改革がとり上げられています。保護者が先生方を理解し、先生方の働き方を理解する中で、もっと家庭でできることは沢山あると思います。そのような形で改善の一助となるべく（日本PTAは）社会教育関係団体として、さらに皆様方と手を取りながら、ご指導いただきながら、子どもたちの健全育成のため、未来のために活動していく所存ですので、今後ともご協力を宜しくお願い申し上げます。

結びになりますが、本日ご参集の皆様の益々のご健康と子どもたちの明るい未来を祈念してご挨拶とさせて頂きます。本日は誠におめでとうございます。

祝辞

文部科学大臣
林　芳正氏
（代読）文部科学事務次官　戸谷　一夫氏

文部科学事務次官
戸谷　一夫氏

本日、平成29年度　日本PTA全国協議会　年次表彰式がこのように盛大に開催されますことを、心からお慶び申し上げます。

本日、受賞された皆様におかれましては、永年にわたり、他の模範となる活動に努められ、PTA活動の振興に多大な貢献をなされてまいりました。これまでの御功績に対し、深く敬意を表します。

教育は、「未来への先行投資」であり、「教育再生」は政府の最重要課題の一つとなっております。文部科学省では、「教育再生」を実現するための取組を、現在全力で進めているところでございます。

皆様からは昨年度、子どもたちの健やかな成長を願い、全国的な教育水準の維持向上を促進する立場から、教職員定数の改善に向け大変力強い御支援を頂きました。皆様のお力添えのおかげで、本年三月には教職員定数の改善や学校の運営体制の強化等を図るための義務標準法等の改正を実現することができました。改めて御礼申し上げます。

また、子供を取り巻く環境が複雑化・困難化する中、学校のみならず社会総掛かりで教育を実現することが必要となっています。

こうした状況を踏まえ、本年三月、保護者の皆様をはじめ幅広い地域住民の参画により、地域全体で子供たちの成長を支える「地域学校協働活動」を推進するため、社会教育法が改正されました。本法律では、連携協力体制の整備や、地域と学校をつなぐ「地域学校協働活動推進員」に関する規定が整備されております。

PTA活動に携わる皆様方におかれましては、当然のことながら、我が子だけでなく、全ての子供たちのためにという気持ちを持っていらっしゃると思いますが、そのことにより、仕事や家庭との両立など様々な工夫をしていただいていることと存じます。そのような皆様の熱意や日頃の御尽力に感謝申し上げます。

皆様の熱意やご尽力に感謝

一方で、本年四月に公表いたしました教員勤務実態調査の速報値において、改めて教員の長時間勤務の実態が明らかになったところでございます。これを踏まえ、教員の長時間勤務を見直しながら、新学習指導要領等を確実に実施していくために、中央教育審議会に、学校における働き方改革に関する総合的な方策について諮問したところでございます。中教審では、本年八月に緊急提言をおとりまとめいただくなど、東川会長を始め、委員の方々に熱心に御議論いただいているところですが、実効性のある取組を進めるためには、保護者の皆さまの御協力が何より不可欠です。今後とも、皆様の御理解とお力添えをいただきますよう改めてお願いいたします。

結びに、日本PTA全国協議会の益々の御発展と、御来場の皆様の一層の御活躍を祈念申し上げ、御祝いの言葉といたします。

日本PTAは、平成30年に創立70周年を迎えます

子どもの成長　自分の成長願い邁進を

受賞者代表

謝辞

受賞者代表　齊藤　植栄氏

本日、平成29年度優良ＰＴＡ、文部科学大臣表彰、日本ＰＴＡ会長表彰、第39回全国小・中学校ＰＴＡ広報紙コンクール表彰の各賞を受賞された皆様を代表しまして、僭越ではありますが、謝辞を述べさせていただきます。

本日はこのような素晴らしい場所で、そして、日本全国の素晴らしいＰＴＡに関係する仲間の前でこのような素晴らしい賞を頂戴しましたことに誠に感謝を申し上げます。

私はＰＴＡには12年間、携わることができ、今、振り返るとあっという間の時間であったと感じています。

振り出しは、長男が小学生に入学した時にその単位ＰＴＡの成人委員会の会計で、各委員長、副会長、会長、そして最後は、川崎市ＰＴＡ連絡協議会の会長を3年間務めることが出来ました。

今、思い返すと、たくさんの方々に支えられていたんだと感慨深い感情が溢れてきます。

その12年間は様々なＰＴＡ活動を通じて、たくさんの仲間と出会い、その仲間たちと刺激し合って、自分自身の成長を感じる貴重な時間であったと感じております。

この12年間のＰＴＡ活動の中で楽しかった思い出はたくさんありましたが、一番辛かったのは、約3年前になりますが、私が川崎市ＰＴＡ連絡協議会の会長の1年目に起こりました『川崎市中学生殺傷事件』です。

この事件が発生した時、川崎市、川崎区、単位ＰＴＡの会長を同時にやっていた時期でもあり、そして、その地域に住んでいたということもあり、何故、彼を助けられなかったのだろうか、ＰＴＡの一員として、何かほんの一かけらでも、彼の『助けてほしい』という発信に気づくことが出来なかったのだろうかと思うと、今でも心が痛みます。

この事件が発生して、ＰＴＡとして、そして、地域一員として、たくさんの会議等が開催され、その会議に参加をし、『ハッキリとこうすれば良い。』という明確な答えは導かれなかったのですが、『絶対にこのような事件は発生させてはいけない。』その為には『家庭、学校、地域との連携が必要不可欠である。』という答えはどの会議でも意見は一致しました。

ＰＴＡは社会教育関係団体として、子どもの成長を見守り、そして、自分の成長のため、各種活動を通じて、家庭、学校、地域を結ぶ懸け橋として、益々、その活動を活発的に進めていく必要があると思います。

日本全国の各カテゴリーでのＰＴＡ活動範囲の違いはあるとは思いますが、『子どものために』を合言葉として、今後とも、子どもの成長のため、自分の成長のための活動を邁進していってほしいと思います。

最後になりますが、公益社団法人日本ＰＴＡ全国協議会、そして、日本全国の各カテゴリーのＰＴＡ、ＰＴＡ活動に携わるたくさんの皆様の益々のご健勝とご多幸、そして、日本全国の子どもたちの幸せを祈念しまして、謝辞とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。

第39回全国小・中学校PTA広報紙コンクール受賞団体

優良ＰＴＡ活動紹介

優良ＰＴＡ文部科学大臣表彰受賞

神戸市立湊翔楠中学校

湊翔楠中学校は神戸市中央区に位置し湊中学校と楠中学校が統合し7年目の新しい学校であります。

また、交通の便が良く、様々な研究授業や運動部の大会の会場としてたくさんの来校者があり活気のある学校です。校区は西六甲の麓から神戸有数の繁華街まで広域にわたります。

ＰＴＡの中心的な活動として校区内パトロールやおはようあいさつ運動、制服・体操服リユース等を行っていますが、テーブルマナー講習会、美味しいうどんだし講習会、グランドゴルフ大会やヨガ教室等子供を中心としながらも、保護者同士のつながりも大事にした活動も積極的に行っており、誰もがその輪に入りやすい楽しい雰囲気で風通しのよいＰＴＡを目指しています。

今回の受賞は大変光栄であると同時に身の引き締まる思いです。

今後も子どもたちのために先生方、地域の皆さんと共に手を携え、よりよい学校づくりを支えてまいりたいと思います。

テーブルマナー講習会2017

日本PTA全国協議会会長表彰　団体受賞

大分県 豊後高田市立真玉中学校

生徒の活躍（真玉歌舞伎）

本校は、〝日本の夕陽百選〟に選ばれた真玉海岸に隣接する全校生徒60名弱の小規模校です。

地域には真玉歌舞伎という２００年以上の歴史がある郷土芸能があり、生徒は保存会の方々から熱心に指導を受け、保存と継承に取り組んでいます。

また、毎年秋には豊後高田よっちょくれ祭りが本校を会場に開催され、保護者や地域の方々と一緒になって運営に参加するなど、地域の中の学校、地域に育てられ郷土愛を持った心豊かな生徒の育成に邁進しています。

また、ＰＴＡ活動の代表的な取組が、ノーメディアデーです。

地域には学習塾なども少なく、生徒は家庭で過ごす時間が比較的長い傾向にあります。

そのため、家庭の中での学習を習慣化させることが確かな学力をつける上で必要不可欠であり、テレビやゲームなどをしない時間を家庭の中で設ける実直な活動を保護者と一緒に取り組んでいます。

今回の受賞を機に学校・家庭・地域との一層のコラボレーション向上を目指したいと思います。

（校長　平松　豊）

日本PTA全国協議会会長表彰　個人受賞

静岡県　川崎 秀和 氏

約10年間携わった義務教育課程のＰＴＡを卒業して、早、半年。

現役は退きましたが、地元地域における小・中学校のサポーターとしてお手伝いを継続する中、先日も給食試食会に招かれ、食堂で子どもたちに混ざってわいわいガヤガヤしながら給食を食べました。

日本中の単位ＰＴＡで、そんな何気ない普段の活動の継続によって、学校と家庭、そして地域の支えがあって、子どもたちのためにより良い教育環境が整っていくものと思います。

是非、改めて感じていただきたいのは、組織が大きくなるにつれ、その役員につくと現場（単Ｐ）の活動から離れてしまう、といった声が聞かれます。

ＰＴＡは組織ありきではく、単位ＰＴＡの活動の充実とそこに関わる人材の確保と拡大、そしてその上で、協議会や連合会といった横の連携が大切になってくるものと実感しました。

今後とも未来を担う子どもたちのために、〝楽しく〟ＰＴＡ活動を続けてほしいと思います。

第65回日本PTA全国研究大会仙台大会

8月25、26日に開催しました「第65回日本PTA全国研究大会仙台大会」は、お蔭様をもちまして、8000人規模の大きな大会となりました。

スローガン「つながろうPTA！子どもたちの輝く未来のために」～杜の都発！みちのくの今を伝えたい　感謝の思いと確かな歩みとともに～のもと、実り多い、情熱と感動を共有できた大会だったと、参加した皆様から賞賛いただくことができました。また、先の東日本大震災からの復興、歩みをPTAの視点からお伝えできたことも、震災後初の被災地で行われた全国大会として大きな成果であったかと存じます。

分科会では、各領域の研究課題にふさわしい提言者の方々をお招きしての、基調講演、実践発表、パネルディスカッションと今後のPTA活動に役立つ情報提供、問題提起等ができたものと自負しております。

さらには今日的課題として「いじめ」の問題を真正面から取り上げ、鳴門教育大学、宮城教育大学などから最新の研究、取組をされている提言者による討議も大変意義深いものとなりました。

第１分科会

仙台銀行ホールイズミティ２１　大ホール

組織運営
「多くの仲間と活動できるPTA活動を求めて」
～全ては子どもたちのため　みんなで一緒に活動しよう～

川島　高之　氏

「PTA活動は期間限定の特権」「子どもは地域へのパスポート」「活性化のための５つの『間』時間・空間・仲間・手間・すき間」。実践に裏付けされたキーワードが次々に飛び出した基調講演と実践発表を受け、パネルディスカッションでは「保護者も先生も参加しやすくなる組織づくり」他３つのテーマに沿って議論が交わされました。自ら楽しみつつPTA活動の改革を進めてきたパネリストからの提言に、会場では大きく頷く姿が見られました。

第２分科会

東京エレクトロンホール宮城

家庭教育
「子どもの個性を伸ばす家庭環境を求めて」
～やる気を育む言葉のチカラ～

瀧　靖之　氏

子育てへの関心から、多くの会員が参加しました。基調講演では、脳科学から見た子どもの発達を平易な言葉で説明、やる気を育むための具体的な提案をいただきました。パネルディスカッションでは、専門的な立場での事例を多数お持ちのパネリストからの提言を受け、コーディネーターが、ある数学者の言葉を引用して「親子関係とは、愛情の足し算、自由の引き算、問題の掛け算、所有物の割り算」と紹介。たくさんの子育てのヒントが得られた分科会でした。

第３分科会

日立システムズホール仙台　シアターホール

学校教育
「協働による学校教育活動の在り方を求めて」
～家庭と学校と地域をつなぐ　「子」ミュニケーション～

宮崎　稔　氏

学校教育、社会教育両方の立場で、日本各地での「かろやかな協働」による自らの教育活動の実践紹介をした基調講演者以下、実践発表者、パネリストも、家庭・地域・学校を巻き込み成果を上げてきた仕掛け人揃い、魅力的な人柄が現れたパネルディスカッションとなりました。事前にワクワクドキドキする分科会にしようと打合せをしたとか、コーディネーターを中心に、登壇者同士のコミュニケーションもばっちり、ゆとりとユーモア溢れた分科会でした。

第４分科会

太白区文化センター楽楽楽ホール

広報活動
「保護者や地域への更なる発信力を求めて」
～PTA活動の魅力を伝えよう～

酒井　美紀　氏

基調講演者の魅力に惹かれ、申込では一番人気だった分科会。パネルディスカッションは、「広報の手段」「受け手の心を引き寄せる工夫」「発信する側の課題と注意点」の３本柱で進められました。電子媒体の普及で押され気味の紙媒体という流れはあっても、「PTA会報紙」は不動であり、読者目線での読みたくなる工夫について、それぞれの立場から提言されました。重要なのは「記事になる活動の継続」、PTA活動の魅力について、熱く語られたのが印象的でした。

第５分科会

仙台国際センター会議棟　大ホール

地域連携
「地域と共にあるPTA活動の在り方を求めて」
～震災の経験を活かして取り組む地域防災～

麻生川　敦　氏

南三陸町立戸倉小学校と仙台市立荒浜小学校、津波で壊滅的な被害を受けた2つの学校の当日から復興までの道のりを、当時の校長、PTA会長からお聞きしました。その教訓を次代に伝える、学校、NPO、行政、地域、PTA等の取組を考える、内容の濃い分科会でした。災害への備えに必要なのは日常的な地域ぐるみの協働である、との認識を、東北大学災害科学国際研究所教授であるコーディネーターがまとめ、被災地仙台から未災地への発信となりました。

第６分科会

東北大学百周年記念会館川内萩ホール

人権教育
「互いを認め、尊重し合える心の教育を求めて」
～インターネットの普及によって多様化する　コミュニケーションの中で、思いやる心を育むには～

武田　さち子　氏

現代の子どもたちを脅かす「人権」上の重要課題を、ネット社会をどう生きるか、という視点で捉え、多角的に理解する仕掛けを随所に盛り込んだ分科会でした。SNSの利便性や楽しさを享受し活用するためには、その功罪を正しく理解することが大切であるとの認識に立った取組を各パネリストが紹介、情報教育の第一人者であるコーディネーターが、ICTのCはコミュニケーションであることを力説、実際にICTを活用した時間・空間・学びを共有した実験的な分科会になりました。

第７分科会

仙台国際センター展示棟　展示室

環境教育
「子どもたちが健やかに育つ環境の在り方を求めて」
～行動することで繋がる子どもたちの未来～

見上　一幸　氏

基調講演で宮城教育大学学長が提言したキーワード「ワンダー」。和訳すると「身近な豊かな自然体験」が、子どもたちの健やかな成長には不可欠という認識の下、震災後は使命感にも駆られて行動してきた各パネリストからの報告を、参会者は驚きをもって受け止めていました。過疎・少子・高齢化の課題を抱える東北で、持続可能な社会のために、自然の循環だけではない人の循環を作ることが大切、PTAにはその力があると再認識できました。

第８分科会

トークネットホール仙台（仙台市民会館）大ホール

健康安全
「子どもたちの健康な心と身体を育む食を求めて」
～「こ食」と地域の食育～

北折　一　氏

基調講演者の絶妙な掴みと、クイズ形式でグイグイ引き込むトークで、あっという間の60分。子どもの食育から大人の食生活まで「変えれば変わるし、変えなければ変わらない」というメッセージに、参会者は自分事として捉えていました。実践発表「こども食堂」には開設の質問があり、子どもの食環境を改善しようとする動きが広がっていることを実感。野菜ソムリエや野菜生産者によるパネルディスカッションは、地産地消や旬の野菜、郷土料理について盛り上がりました。

特別第１分科会

仙台サンプラザホール

日本PTA全国協議会担当
「いじめ」何が起きているかを知る

森田　洋司　氏

基調講演は、豊富な知見と豊かな人間性を感じさせる話術で、参会者も心から納得した様子でした。

パネルディスカッションは、「いじめという現象を知る」「解決について考える」「予防のためにそれぞれの立場でできることを考える」という３つのテーマで、寸劇を導き役として進められました。

最後に「責任は誰にあるのか」ではなく「私の責任で何ができるか」が参会者に投げかけられ、いじめに関してPTAは何ができるか、考えさせられる余韻を残して終了しました。

特別第２分科会

仙台国際センター展示棟　展示室

文部科学省協力
「支援される側から支援する側へ　さらに一歩踏み出した子どもたち」
～子どもたちの支援活動を支えるためにPTAとしてできることを考えよう～

田端　健人　氏

震災後、被災地では、子どもたちが学校の学びとして、あるいは主体的に、復興に向け活動してきました。子どもたちの行動が被災者を元気づけたというエピソードは、数えきれない位あります。活動を紹介し、被災体験や発達段階に沿って大人としてどう支援してきたか、支援していけばいいか、支えた先生、PTA、社会教育関係者のパネリストが紹介・提言しました。基調講演者からは専門的な立場で、防災は学びの質転換につながるというコメントをいただきました。

日本ＰＴＡブロック研究大会

中学生らが討論会　提言も

第64回日本ＰＴＡ北海道ブロック研究大会　小樽大会

○期日　10月7日・8日
○場所　小樽市　小樽市民会館他

山川　隆氏

○スローガン
「未来へ　つながろう　ひとりひとりの心　海より大きな愛で育んでいこう」

北海道ブロック研究大会小樽大会が、約1330名の会員を迎え、豊かな自然と文化の香り溢れる情緒豊かなまち小樽の地で開催されました。

一日目は市内の小中学校など七会場で五つの分科会と二つの特別分科会が開催され、二日目は、小樽市民会館大ホールで、全体会、記念講演、閉会行事等が行われました。

一日目の各分科会では、それぞれのテーマに基づき、各単位ＰＴＡや各地区の特色あるＰＴＡ活動の取組の発表があり、防災に対する地域との連携、読書好きの子どもを育む家庭教育のあり方、ＰＴＡができる学校支援、子育てを支える地域とのつながり、食育についてなど、様々な視点から熱心な研究協議が行われました。

また、特別第一分科会「中学生討論会」では、「中学生だからできること～わたしたちからの提言」をテーマに12校24名の中学生による討論が行われ、特別第二分科会では「知識を磨き、心を磨く情報モラル教育」をテーマに、講演や情報モラル教育に係るグループ討議等が行われました。

二日目の全体会の講演では、トンボハイヤー株式会社取締役の山川隆氏から「北海道の歴史から学ぶ　命の大切さと親子のつながり」と題し、時代の移り変わりとともに変化してきた子育てのあり方を振り返るとともに、子どもへの愛情を原動力にその成長発達に合わせて育むことの大切さについてお話しいただきました。

最後に、来年度の旭川大会での再会を願いながら大会を終了しました。

第49回日本ＰＴＡ関東ブロック研究大会　群馬大会

○期日　10月21日・22日
○場所　分科会　高崎市内7会場
　　全体会　群馬音楽センター

「伝統　自尊感情　自立した大人への架け橋」

阿部　祐二氏

「伝統　自尊感情　自立した大人への架け橋」～絹の国から　未来を自分らしく生き抜く子どもたちを育てるために～のスローガンの元、関東全域から約2000人が集結しました。会場はすべて、交通の地の利を生かした高崎市内で、コンパクトな設定を目指しました。

「いい大会にしよう」とみんなで熱く語り合い、議論を重ね、まさにオール群馬での開催でした。

全大会記念講演は、大学時代から家庭教師を始め、36歳まで、芸能・取材活動の傍らプロの家庭教師として教育に携わった経験や、レポーターとして取材を通して経験したことから感じた、子どもの人権について記念講演が行われました。

福井県でのいじめレポートの様子や、マスコミ取材方法の問題などを中心に、現在の子どもたちを取り巻く環境や、いじめ・教育問題について非常に興味深い話が続き、子育て世代には大変参考になる講演となった。

大人の学び場　家庭・地域・学校一つに

第73回日本ＰＴＡ東海北陸ブロック研究大会　福井県敦賀大会

○期日　10月7日
○場所　分科会　福井県敦賀井市内6会場
　　全体会　福井県敦賀市総合運動公園体育館

金谷　俊一郎氏

本大会は、『「つながり」～東陸丸　みなと(港)　ここ(つるが)　から　いざ出航～』を大会主題に掲げ開催しました。

私たちは「全ては子どもたちのために」との思いで、単位ＰＴＡの一会員として、また連合会・協議会の役員として日々活動しています。この大会は各地の同志が一堂に会し、共に研究・討議することで、それぞれがつながり、点としての活動が東海北陸ブロックという面の活動へと展開され、さらには全国に発信される、そんな大会でありたいと考えました。

当日は、心配された天候にも恵まれ、県内外より2800名に迫る参加を得て、熱心な研究協議のうちに終了することが出来ました。

子どもたちを取り巻く生活環境は日々変化し、便利に加速しています。マスコミでは、連日家庭や学校を舞台とする様々な問題が報道されています。子の教育について第一義的責任を有するはずの我々保護者の中でもＰＴＡのあり方について疑問が持たれているのが現状ではないでしょうか。そこには、人と人との「つながり」の希薄さを感じてなりません。

そんな時代であるからこそ我々ＰＴＡは、日々の活動を通して顔と顔をつきあわせ、「家庭・学校・地域」の「つながり」を深めることが大切であると考えます。今後も6県1市のＰＴＡ活動の情報交換を行い、「大人の学び場」として互いに協力してＰＴＡの活動を進めていきたいと考えます。

また、ご自身の受験体験では、東大を目指して猛勉強していたこと、早稲田大学政治経済学部へ進学したことにより、現在の仕事に就くことができたこと、ミス・ユニバース日本代表となった娘・桃子さんの子育てなど、歯切れのいい語り口に二千人を超える聴衆は魅了されました。

子と大人のコミュニケーション力協議

第47回日本ＰＴＡ中国ブロック研究大会　広島県ふくやま大会

○期日　11月11日
○場所　福山市緑町公園内競技場
　　ローズアリーナ

明治大学文学部教授
齋藤　孝氏

街路樹の葉も色づき、秋深まった平成29年11月11日(土)、福山市緑町公園内競技場（ローズアリーナ）において、『「咲かせよう　心の花を！」～寄りそおう子どもの心に、見直そう大人の心を～』を大会スローガンに、第47回日本ＰＴＡ中国ブロック研究大会広島県ふくやま大会が、中国地方5県1政令市から2000名を超えるＰＴＡ会員が参加し、盛大に研究大会が開催された。

開会式では、（公社）日本ＰＴＡ全国協議会の東川勝哉会長をはじめ、多くの来賓の方々の祝辞等をいただき、その後表彰式が行われ8名の功労者が表彰された。

記念講演は「人間関係をつくるコミュニケーション力」と題し、明治大学文学部教授齋藤孝先生の熱のこもった、実践を伴っての講演が行われ、会話の中でも「雑談力」が大切であり、子どもに新聞を読ませて興味がある記事を切り抜いてノートに貼り、学校で発表させること、子どもと一緒に音読すること。また文章を音速読することが効果的であることなど参加者は大いに学びを深めた。

午後からの「心がつながるコミュニケーション」と題したパネルディスカッションでは、今日的課題や提案を、家庭・学校・地域と分類して、子どもと大人のコミュニケーション力をディスカッションし、様々な可能性と重要性を参加者と共に再認識した。

閉会式では、ばらのまち福山の合言葉である「ローズマインド」(思いやり、優しさ、助け合いの心)を大切にしながら、子どもたちが未来に向かって一人ひとりの大きな花を咲かすことができるよう、さらなるＰＴＡ活動の充実と発展をめざすことが大会宣言として採択され、参加者一同感動を共有し、明日からの活動の大きな原動力となった。

ブロック研究大会（一覧）

第64回日本ＰＴＡ北海道ブロック研究大会 小樽大会	開催日時	記念講演
	10月７・８日	山川　隆
スローガン	「未来へ　つながろう　ひとりひとりの心　海より大きな愛で育んでいこう」	
第49回日本ＰＴＡ関東ブロック研究大会 群馬大会	開催日時	記念講演
	10月21・22日	阿部　祐二
スローガン	伝統　自尊感情　自立した大人への架け橋 ～絹の国から 未来を自分らしく生き抜く子どもたちを育てるために～	
第73回日本ＰＴＡ東海北陸ブロック研究大会 福井県敦賀大会	開催日時	記念講演
	10月７日	金谷　俊一郎
スローガン	「つながり」 ～東陸丸　みなと（港）ここ（つるが）から　いざ出航～	
第43回日本ＰＴＡ近畿ブロック研究大会 大阪府大会	開催日時	記念講演
	10月27日	角　淳一
スローガン	「よっしゃ！やるでＰＴＡ」 ～私たちができることを～	
第46回日本ＰＴＡ四国ブロック研究大会 高知県大会	開催日時	記念講演
	10月28日	弓削田　健介
スローガン	「子どもたちが夢を語り、かなえられる時代をつくろう」	
第47回日本ＰＴＡ中国ブロック研究大会 広島県ふくやま大会	開催日時	記念講演
	11月11日	齋藤　孝
スローガン	咲かせよう　心の花を！ ～寄りそおう子どもの心に、見直そう大人の心を～	
第62回日本ＰＴＡ九州ブロック研究大会 おおいた大会	開催日時	記念講演
	10月21・22日	神田　岳委
スローガン	ともにつながり育て合おう！光り輝く地域の宝のために ～ＰＴＡ・協育・こどもの未来～	

『「よっしゃ！やるでＰＴＡ」～私たちができることを～』

第43回日本ＰＴＡ近畿ブロック研究大会　大阪府大会

○期日　10月27日
○場所　大阪国際会議場

角　淳一氏

第43回日本ＰＴＡ近畿ブロック研究大会大阪府大会が去る10月27日㈮大阪国際会議場にて開催されました。

当日、近畿各地よりご参加いただいた2500名を超える会員の皆さま、また、大変お忙しい中ご臨席いただいたご来賓の皆さま、この場をお借りして深く感謝申し上げます。

本大会のスローガン『「よっしゃ！やるでＰＴＡ」～私たちができることを～』はＰＴＡ活動を無理せず着実に活動して子どもたちの笑顔に繋げていこうとの思いを込めたスローガンです。

その思いを参加された皆様に感じていただけたら大変うれしく思います。

午前中の分科会では、組織・運営、生涯学習、人権学習、青少年健全育成、広報活動の五つの領域の研究課題に対する発表があり、参加者からの活発な質問や意見が寄せられました。

また、特別分科会では、「みんながつくる　みんなの学校」をテーマに木村泰子先生にご講演いただき、会場いっぱいの参加者に共感を得る講演になりました。

午後の全体会ではゴスペル「ヒューマンノート」のアトラクションで幕を開け、挨拶・表彰式・大会宣言採択と進み、記念講演は、大阪に縁の深い角淳一氏をお迎えし「笑って楽しく生きていく」を演題としてご講演いただき、その独特な話術の魅力に多くの参加者が心をくすぐられました。

最後にこの大会の運営を通じて、関係者の絆がさらに深まり、かけがえのない仲間と共に同じ時間を過ごせたことに心から感謝いたします。

よさこい鳴子踊りでおもてなし

第46回日本ＰＴＡ四国ブロック研究大会　高知県大会

○期日　10月28日
○場所　高知県民文化ホール

10月28日㈯高知県民文化ホールにて、四国４県より約９００名の会員が集い、第46回日本ＰＴＡ四国ブロック研究大会高知県大会が開催されました。

高知県知事にもご臨席を賜り、「子どもたちが夢を語り、かなえられる時代をつくろう」の大会スローガンを掲げ、「高知は一つの大家族「高知家」、そしてもっと大きな「四国家」の子どもたちの幸せな未来の為に」と四国ブロックＰＴＡ協議会会長の挨拶で始まります。

表彰行事後のアトラクションは、高知ならではのおもてなし「よさこい鳴子踊り」。小学生からＰＴＡ会員世代が舞い踊る地域チームの演舞に、会場が盛り上がりました。

記念講演は、放浪の作曲家・弓削田健介氏をお招きし、「いのちと夢のコンサート」を開催しました。

弓削田　健介氏

「ハナミズキ」から始まった御自身の活動や、体験から発せられる言葉、弾き語りの曲に、会場は一気に引き込まれます。

「アンパンマンのテーマ」の歌詞の中にある意味、「たいせつなあなたへ」は、子どもが生まれた時の気持ちを思い出された方も多かったと思います。

涙と感動に包まれた優しい時間はあっという間で、いのちの大切さ、小さくても夢を持つことの大切さを改めて感じるコンサートとなりました。

大会終了後、会員からは、「もう一度、単Ｐや市町村Ｐで、子どもと一緒にコンサートを聞きたい」との声をたくさん耳にしました。

最後になりますが、この研究大会に関わって下さった全ての方に感謝し、そして、子どもたちの未来がより明るく開かれているものと信じます。

獣医師の講演　子育てと通じ共感

第62回日本ＰＴＡ九州ブロック研究大会　おおいた大会

○期日　10月21日・22日
○場所　別府ビーコンプラザ　他10会場

どうぶつと共に生きる

「動物園でいちばん大きい生き物は何でしょう？はい、それではどなたかに答えていただきましょう」。記念講演者神田氏の問い掛けに、一斉に下を向く参加者。

その様子に「皆さん、授業参観で子どもさんが、積極的に発言をしなかったら何と言いますか？自宅に帰って、『○○ちゃん、元気よく発表せんといけんやろう』と言うんじゃないですか？はい！そこのあなた！」と、質問形式で始まった講演会。

参加者を巻き込んだ軽妙なトークに、会場はすぐさま大きな笑いに包まれた。

小学生の頃、犬（ケン）という犬を父親に頼み込んで飼い始めたことが動物との関わりの始まり。その犬が病気になったとき近所の老獣医師が、まるで魔法のように犬を治してくれたこと、それが獣医師になりたいと思うきっかけとなった。

獣医師　神田　岳委氏

中学・高校と夢は途切れることなく、大型猫科動物の治療を得意とする獣医師となった。

自身の経歴を織り込みながら、夢を諦めない強い気持ちを持ち続けることを語ってくれた。

かつて、自宅で人工保育をした雌のライオン、リボンが死を迎えたとき、務めである解剖をしなければならない。何度となく行ってきたはずのもの。初めて、メスを持つ手が動かなかった。獣医師であるが故の辛さを語ってくれた。

「帰ったら、○○ちゃんただいまと声を掛けてください。温かい声を掛けてください。優しく接してください。大事にされているとわかりますから。」子育てと通じることに共感した。

涙と笑いの絶えない温かい講演となった。

学校・保護者・地域の「協働」へ向けて

筑波大学教授　浜田　博文

第２回　異なる者どうしが手を携える

10年ほど前までは「少子高齢化」という言葉が注目されていたのですが、最近注目されているのは「人口減少社会」です。子どもの数が減るだけではなく、人口全体が縮小していく時代です。

私が住む茨城県つくば市は、２００５年に都内まで約１時間で行ける鉄道が開通したため、沿線で大規模な住宅開発が進んでいます。いまどき珍しく子育て世代の住民が増えて、学校も新設されています。

私自身もそうなのですが、こうした住民の多くは県外の様々な地域から移り住んできて、地元の地縁・血縁の関係をほとんど持たない人たちです。

じつは同じ市内でも、人口増加が著しいのはごく一部で、昔ながらの田園風景が広がる大半の地域では、ご多分に漏れず少子高齢化が進んでいます。

全国的にみると、おそらくほとんどの地域で同じような状況がみられると思います。学校の統廃合が進められていて、子どもたちの通学距離が遠くなり、住民と学校との関係がつくりにくくなっているところが少なくありません。

このように、子どもが増えている地域でも、その数が減って学校統廃合に至ってしまう地域でも、子どもたちの成育環境の鍵を握る人々の関係づくりは重要な課題になっています。

前者の地域では、生まれも育ちも異なる人たちどうしがイチから共同体を創る必要があります。また後者の地域では、昔から形成されてきた地域コミュニティの力を強めたり、違うコミュニティを複数結びつけたりして、新たな共同体を作り直すことが求められます。

いずれの場合も、子どもたちが集まって共に学ぶ場としての学校の存在が重要な意味をもつにちがいありません。

なぜなら、学校という場は、互いに異なる家庭・地域から通う子どもたちが、協働関係のもとで育ち合うことが必須だからです。

子どもの教育は、大切な未来社会の形成者を育成するという「公共」の利益を実現する営みです。留意しなければならないことは、単に気の合う人だけが集まるだけでは「公共」の実現はできないという点です。

異なる価値観や考え方をもつ様々な人々が自由にアクセスできてこそ、「公共」は成り立ちます。だからこそ、人々は互いの違いを尊重しつつ関わり合うことが必要なのです。

子どもたちが育っていく環境に、そのような意味での「公共」を意識した協働の関係を創ることが求められています。

東京2020大会マスコット選定における小学生による投票について

～12月11日から開始！～

公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

●東京２０２０大会マスコットについて

オリンピック・パラリンピック競技大会マスコット（以下「大会マスコット」という。）は選手や世界中から集まる観客を歓迎し、大会を盛り上げるだけでなく、オリンピック・パラリンピックの精神を伝え、日本の文化や魅力を紹介する重要な役割を果たし、まさに「大会の顔」といえる存在です。

●大会マスコットの制作・選定

大会マスコットの制作にあたっては、デザインを公募とし、８月１日から８月14日に応募を受け付け、２０４２件の応募をいただいた後、マスコット審査会による審査を経て、３案に絞られました。

最終的なマスコットの決定にあたっては、日本の子供たちに愛されるマスコットこそが東京２０２０大会のマスコットにふさわしいと考え、次代を担う日本全国の小学生に投票で選んでいただくこととしています。

今後、全国の小学校の学級単位による投票において、最も多くの票を得たデザインが大会マスコットとなります。これは過去のオリンピック・パラリンピック大会にはなかった史上初めての、東京２０２０大会ならではのイノベーティブな試みです。

●対象となる学校等

国内及び国外の商標調査等をクリアした最終候補の３作品は12月７日に発表され、12月11日から全国の小学校の投票がはじまりました。

●投票までの流れ

各学校における投票完了までの流れは以下のとおりです。

①投票用サイトへの事前参加登録（投票期間中も登録が可能です。）

②最終候補作品発表（12月７日）

③候補作品を基に各クラスで話し合い、クラスで１案を選出

④学校の代表者が各学級の結果を取りまとめ、投票用サイトへ結果を入力（投票受付期間：２０１７年12月11日～２０１８年２月22日）

この投票は、児童がオリンピック・パラリンピックの精神を学びつつ、大会に関わることのできる貴重な機会です。

ＰＴＡの皆様におかれては、一校でも多くの域内の小学校にマスコット投票に参加いただけるようご協力をいただきたく、よろしくお願いいたします。

【問い合わせ先】
公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック
競技大会組織委員会
東京２０２０大会マスコット投票事務局
TEL　０５７０-０３５１０５（有料）
受付時間：平日10：00～18：00
※土日祝日、年末年始を除く

明治１５０年

日本の未来考える契機に

平成30年（２０１８年）は、明治元年（１８６８年）から起算して満１５０年に当たります。政府では、内閣官房副長官を議長とする「「明治１５０年」関連施策各府省連絡会議」を設け、①「明治以降の歩みを次世代に遺す施策」、②「明治の精神に学び、さらに飛躍する国へ向けた施策」、③「明治１５０年に向けた機運を高めていく施策」の３つを柱として、政府一体となって「明治１５０年」関連施策を推進しているところです。国だけでなく、地方公共団体や民間も含めて、日本各地で、「明治１５０年」に関連する多様な取組が推進されるよう、ロゴマークの使用促進や広報などを通じて、「明治１５０年」に向けた機運の醸成を図っています。　詳しくは以下のホームページを御覧下さい。

http://www.kantei.go.jp/jp/singi/meiji150/portal/

各府省庁会議の経過について
～子どもたちの健全育成を目指して～

いじめ対策協議会

（公社）日本ＰＴＡ全国協議会　副会長　齋藤芳尚

本協議会は、平成25年10月11日文部科学大臣決定の「いじめの防止等のための基本的な方針」に基づき、学校関係者や各種職能団体等の関係団体から有識者の参画を得て、いじめ防止対策推進法に基づく取組状況把握と検証を的確に行うとともに、いじめ問題等に関して、関係者間の連携強化を図り、より実効的な対策を講じるため設置された協議会です。

本年度は、昨年度よりの継続として、いじめ防止対策に関わる事例集の作成についての検討を実施し、事例収集の方法やどのように活用するかの協議を行い、発刊に向けての活動に入りました。私たち日本ＰＴＡも本事例集に対し事例の提供を行いました。

また本年度は、いじめの相談体制について様々な検討を進めています。

これまでは電話での相談体制が主でありましたが、昨今の社会環境の変化の中で、家に固定の電話がない、子どもたちは固定の電話を使用しないなど、固定電話の価値観が変わってきている中で、現状の相談体制だけでは拾いきれなくなってきているのではないかとの懸念があり、子どもたちが使用しているＳＮＳを活用したいじめ等に関する相談体制の構築について、検討をしています。

これについては様々な課題もあります。ＳＮＳ上のトラブルは様々なところで問題になっていますが、子どもたちは現在ＳＮＳを通じての連絡を主な手段としている事実もあります。

そのような背景の中で、どのようにしていくのがよいかを企業やこれまで活動をしているＮＰＯ団体などを交えたワーキンググループ（全４回）を設置し、ＳＮＳを活用した相談体制の構築について協議をしてきた中で、当面の考え方の中間報告をおこないました。

いじめ防止については、「これで終わり」というものはなく、時代に応じて様々な方向から検討を行わなければなりません。

私たち日本ＰＴＡも「家庭でできるいじめ防止対策ハンドブック」などをはじめ様々な取組みをしています。

いじめの定義が変更され、私たち保護者の意識も変えていかなければなりません。

難しい課題ではありますが、いじめの根絶に向けて今後も協議会は継続していきます。

全国的な学力調査に関する専門家会議

（公社）日本ＰＴＡ全国協議会　副会長　齋藤芳尚

本会議は、文部科学省が全国的に子どもたちの学力状況を把握するため、平成19年度から全国の小学６年生、中学３年生を対象に実施をしている、全国的な学力調査に関する会議です。

全国的な学力調査の結果を活用して、教育及び教育施策の成果や課題等を検証し、その改善を図るため、調査の実施方法並びに調査結果の取扱い、活用の推進方策及び専門的な分析等について、専門家による検討を行う会議です。

本年度の検討事項は、全国的な学力調査の実施方法について、調査結果の取扱いについて、調査結果の活用に関する取組の推進方策について、調査結果の専門的な分析についての４つの大きな検討事項があります。

実施方法については、小学校で平成32年度、中学校で平成33年度より実施される次期学習指導要領の方向性を勘案した調査問題や質問紙調査項目の精査について。

また平成31年度より実施する中学校の英語学力調査に向けた準備が大きな検討事項です。

調査結果の取扱いでは、教育委員会や学校ごとの特徴をより分かりやすくするためや、一人ひとりの児童生徒に調査結果を提供する個人票の改善・充実について、調査結果のより早期な提供についての検討をしています。

結果の活用に関する取組では、学校ごとに提供する学校がより一層指導を充実すべきと考えられる一定の学力層への教育施策の改善・充実方策の把握について、教育委員会や学校における調査結果分析の好事例について把握があります。

調査結果の分析については、研究者等に対するデータの貸与について、また３年ごとに実施される保護者に対する調査結果の専門的な分析について検討しています。

10年を経過した、学力調査の今後のよりよいあり方や、よりよい実施方法を検討しながら、更に効果的な調査にしていけるよう専門家会議を行っています。

食育推進評価専門委員会への参加

石川県ＰＴＡ連合会　会長　北川和也

２０１６年２月より、食育推進評価専門委員会に出席しております。内閣府所管で第５期・第１回、第３次食育推進基本計画をまとめる仕事からでした。

現在まで、５回の推進評価委員会が開かれており、２０１６年11月からは所管が農林水産省に移り、第３次食育推進基本計画の重点課題「若い世代を中心とした食育の推進」についてのフォローアップ・第４次食育推進基本計画決定までのスケジュールについて議論を深めています。

そもそも「食育」とは何か？を紐解いてみましょう。「食育とは、様々な経験を通じて『食』に関する知識と『食』を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てることである。２００５年に成立した食育基本法においては、生きるための基本的な知識であり、知識の教育、道徳教育、体育教育の基礎となるべきもの、と位置づけられている。単なる料理教育ではなく、食に対する心構えや栄養学、伝統的な食文化についての総合的な教育のことである。」とされています。

第１次から第３次食育推進基本計画まで、様々な取組の中で変遷はあるものの基本的な方針に揺るぎはありません。現在は20歳代30歳代を中心とした、これから親になる世代が食に関する知識を深め、意識を高め、心身の健康を増進する健全な食生活を実践できるよう取り組んでいます。農林水産省のホームページからもダウンロードできる、「啓発リーフレット」は大変良い出来栄えであり、ＰＴＡ会員にはぜひ読んでいただきたいし、理解を深めてもらいたいと思います（第３次食育推進基本計画 啓発リーフレットにて検索できます）。

しかし広報という意味では統一感がなく、今後はしっかりしたルールのもと伝えていく努力が必要ではと感じ、会議内で意見を述べています。なお、座長には日本ＰＴＡ主催「三行詩コンクール」の最終選考委員でもお世話になっている、食育の第一人者 服部幸應先生が就かれています。

男女共同参画推進連携会議 全体会議　内閣府男女共同参画局

千葉県ＰＴＡ連絡協議会　会長　大田紀子

10月18日開催の、男女共同参画推進連携会議全体会議に出席しました。

男女共同参画推進連携会議は、「男女共同参画会議と協力しつつ、男女共同参画社会づくりに向けての国民的な取組を推進するため」に開催されます。広く各界各層から選出のメンバーで構成されており、教育関係団体として日本ＰＴＡも例年参加させていただいています。会議の性質上構成員は女性が多くなっています。

今回の全体会議では、最近の男女共同参画の動きについて、また会議の活動について報告があった後、「男女共同参画社会づくりに向けた取組事例共有～取組の発展のために～」というテーマでグループディスカッションを行いました。教育関係だけでなく大変多くの方と、各団体での女性参画状況や目指していきたい方向についてご意見を交わさせていただきました。

どの団体からも聞かれたのは、〝アンコンシャスバイアス（無意識の偏見）〟が組織の運営にも個人の意識にも根強くあり、女性が社会に参画する事、また参画後キャリア形成やリーダーとして意思決定の場に関わっていくことがまだまだ難しい現状でした。

また、女性参画の阻害要因は偏見だけではなく、根幹的には働き方改革等により社会全体の意識がもっと変わっていく必要があるのではというご意見も多く聞かれました。

今意見を交わしている私達ができる事をという熱い議論の中、アンコンシャスバイアスへの学びやロールモデルの育成等、私自身も深く考えさせられとても勉強になりました。

今後はチーム活動も行われるそうですので、機会があれば積極的に参加し情報を持ち帰りたいと思います。

中央教育審議会について

子どもたちが未来を切り開き、生きる力を育む教育の拡充のため　～学習指導要領の変更について～

（公社）日本ＰＴＡ全国協議会
特任業務執行理事　寺本　充

中央教育審議会（以下：中教審）は、文部科学大臣の諮問に応じ、主に次に掲げる重要事項を調査審議することを目的として法令に基づき文部科学省内に設置された機関です。

(1)文部科学大臣の諮問に応じて教育の振興及び生涯学習の推進を中核とした豊かな人間性を備えた創造的な人材の育成に関する重要事項を調査審議し、文部科学大臣に意見を述べること。

(2)文部科学大臣の諮問に応じて生涯学習に係る機会の整備に関する重要事項を調査審議し、文部科学大臣又は関係行政機関の長に意見を述べること。

(3)法令の規定に基づき審議会の権限に属させられた事項を処理すること。

中教審は人格が高潔で、教育、学術、文化の分野で識見を有する者の内から、内閣の承認を受け文部科学大臣の任命を受けた正委員（30名以内）と臨時委員（専門委員）で構成され、４つの分科会（教育制度、生涯学習、初等中等教育、大学）が置かれ、各分科会のもとに必要に応じ部会、委員会を設置し、全省庁で最も多様で裾野の広い審議会といわれています。

日本で行われる教育は、幼・小・中・高・特別支援に至るまで、学校教育法等に基づいた「学習指導要領」により教育課程を編成し、各学校で授業等が行われていますが、この「学習指導要領」の改定は中教審の最も重要な調査審議の一つです。

「学習指導要領」は、ほぼ10年毎に改訂されており、それぞれの改訂における主なねらいと特徴は、以下のとおりです。（文部科学省ＨＰより一部抜粋）

○ 昭和33～35年改訂　教育課程の基準としての性格の明確化（道徳の時間の新設、系統的な学習を重視、基礎学力の充実、科学技術教育の向上等）

○ 昭和43～45年改訂　教育内容の一層の向上（「教育内容の現代化」）（時代の進展に対応した教育内容の導入（算数における集合の導入等））

○ 昭和52～53年改訂　ゆとりのある充実した学校生活の実現＝学習負担の適正化（各教科等の目標・内容を中核的事項にしぼる）

○ 平成元年改訂　社会の変化に自ら対応できる心豊かな人間の育成（生活科の新設、道徳教育の充実等）

○ 平成10～11年改訂　基礎・基本を確実に身に付けさせ、自ら学び自ら考える力などの「生きる力」の育成（教育内容の厳選、「総合的な学習の時間」の新設等

私たちの子どもが通う小中学校で行われる授業内容

○ 平成20～21年改訂「ゆとり」か「詰め込み」かではなく、基礎的・基本的な知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のため、変化の激しいこれからの社会を生きるために、確かな学力、豊かな心、健やかな体の知・徳・体をバランスよく育てる。

○ 平成28年改訂（幼・小・中学校）資質・能力を一層確実に育成のため社会に開かれた教育課程を重視。知識の理解の質をさらに高め、確かな学力を育成。道徳教育の充実や体験活動の重視、体育・健康に関する指導の充実により、豊かな心や健やかな体を育成。

この改訂により　道徳の特別教科化は、先行して小学校２０１８年４月、中学校２０１９年４月から実施されるとともに、他については２０２０年度より小学校、２０２１年度より中学校で新たな学習指導要領に基づいた授業等が全面実施されます。

言語能力の確実な育成のため、語彙の確実な習得、意見と根拠、具体と抽象を押さえて考えるなど情報を正確に理解し適切に表現する力の育成（小中：国語）や日常生活等から問題を見いだす活動（小：算数、中：数学）や見通しをもった観察・実験（小中：理科）などの充実により、さらに学習の質を向上させる理数教育の充実、伝統や文化に関する教育の充実、小学校中学年で外国語活動、高学年で外国語科が導入されることに伴い、新教材の整備、専科指導の充実、外部人材活用などの条件整備など、子どもたちの教育状況が大きく進展していきます。

教職員はもとより、保護者にとって改定の内容等が解りやすい情報を様々な形で広報周知してもらうことも要望済みで実施予定です。

また、デジタル教科書、学校のＩＣＴ化やそのサポートなど、課題はまだまだ山積しています。

このように、子どもたちが未来を切り開き、生きる力を育む教育の拡充のため、私が第９期中教審の正委員として、総会、初等中等教育分科会、生涯学習分科会、教育課程部会等に、東川会長が、学校における働き方改革特別部会に、川端元理事が教育振興基本計画部会の委員として参画するなど、日本ＰＴＡ全国協議会を組織する全国のＰＴＡ関係者の声や、学校現場と子どもたちの実態、保護者や地域社会の状況をもとに、中教審の各分科会・部会等において各種諮問事項等に対する提言・審議をおこなうことができ、各種施策や学習指導要領等を作り上げていくことができる重要な役割を果たしています。

第３回防災推進国民会議

（公社）日本ＰＴＡ全国協議会　会長　東川勝哉

平成29年12月8日（金）11時00分より、内閣総理大臣官邸2階大ホールに於いて、内閣府の主管のもと、同会議が開催されました。

公益社団法人日本ＰＴＡ全国協議会を代表して、議員として参加して参りました。この会議は、国民の防災に関する意識向上に関し広く各界各層との情報及び意見の交換並びにその他の必要な連携を図り、中央防災会議と協力しつつ、国民の防災に関する意識向上を図ることを目的とし開催されました。

中央防災会議会長（内閣総理大臣）が依頼する各界各層の有識者をもって構成し、中央防災会議会長（内閣総理大臣）が開催しています。

主な議題は「防災推進国民会議のこれまでの活動について」「防災推進国民会議の今後の活動方針について」「構成団体等の取組について」等です。

日本ＰＴＡは設立以来、子どもたちの豊かな育ちと成長を願い、大規模災害があった場合は全国組織のネットワークを活かし、募金活動や物的な支援を行う活動などの教育支援を行って参りました。災害が発生した場合は、各協議会からの依頼や問い合わせを受け、どのような支援が必要であるか速やかに体制を構築する姿勢をとっています。

子どもたちや保護者の身の安全を確保し、如何に命を守るかは日常から、「防災」「減災」の意識と、地域のしくみとしての「防災」「減災」の方策が必要です。

日本ＰＴＡではその必要性から今年の5月に「自然災害からの学びと教訓」を作成し、刊行致しました。実際に自然災害に遭われた方からの学びと教訓（第１章）や第２章においては家庭・学校・地域が連携をした先進的な防災取組事例が掲載されています。

これまでにも九州北部豪雨災害、昨年は熊本地震そして東日本大震災など、これまでも大きな災害に見舞われている日本。日常から非日常となった場合、如何に対応できるかは日頃の心がけもありましょう。

本会議を機に全国の会員の皆様へ意識向上を発信できるよう、日本ＰＴＡは今後とも防災の重要性を認識し、全国のＰＴＡ及び地域の方々に知っていただく努力をして参ります。

第３回防災推進国民会議で配布されました

楽しい子育て全国キャンペーン三行詩　入賞作品決定

9月6日、日本ＰＴＡ会議室において、有識者による楽しい子育て全国キャンペーン三行詩の最終審査が行われ、入賞作品が決定しました。

全国より約13万８千を超える作品が寄せられました。

各地方協議会での第一次審査を通過した８２９作品は、第２次、第３次審査、そして最終審査を経て、各賞受賞の栄誉に輝きました。

表彰式は、12月23日㈯に国立オリンピック記念青少年総合センター国際会議室にて盛大に執り行われます。

また、各優秀作品に漫画家青沼貴子先生のイラストが添えられた２０１８ファミリーカレンダーは現在好評発売中です。

賞＼受賞者	小学生の部	中学生の部	一般の部
文部科学大臣賞	神立　桜子	井上　　環	中山　麻美
厚生労働大臣賞	齊藤　　誉	中島　陽空	長谷川拓雄
日本ＰＴＡ全国協議会会長賞	中村　海晴	島田　龍征	帆足　雅美
早寝早起き朝ごはん全国協議会会長賞	長吉　風凛	黒川　真希	市川　佳代